



日本の新進作家 VOL.6 : スティル / アライヴ

Contemporary Art & Photography in Japan: STILL/ALIVE



伊藤 聖子「Swimming in Qualia(スイミング・イン・クオリア)」2007年(映像作品)

- 主催: 財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 / 東京新聞
助成: 財団法人 地域創造
協賛: 株式会社資生堂 / 凸版印刷株式会社
協力: キヤノン株式会社 / 富士ゼロックス株式会社 / サッポロビール株式会社
会期: 2007年12月22日(土) 2008年2月20日(日)49日間
会場: 東京都写真美術館 2階展示室
開館時間: 10:00-18:00[木・金は20:00まで] / 入館は閉館の30分前まで
ただし12月28日(金)は18:00閉館、1月2~4日は11:00~18:00開館
休館日: 毎週月曜日[ただし月曜日が祝日または振替休日の場合、翌火曜日が休館 /
年末年始は12月29日 1月1日まで休館、1月2日から開館]
観覧料: 一般700[560]円 / 学生600[480]円 / 中高生・65歳以上500[400]円

[]内は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員 小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料、第3水曜日は65歳以上無料

< 展覧会概要 >

東京都写真美術館では、「日本の新進作家」として現代作家を紹介する展覧会を毎年継続的に開催しています。第6回目となる本展は「現代人の生と時間、その表現」をテーマとして、写真・映像をメディアとして制作活動を行う30代のアーティスト4人に焦点をあてたグループ展となります。

現代生活において、人はたえず更新される現在の速度に対応して生きていかなければなりません。一方で時代の価値観の変化は、次第にゆっくりとしたものの価値を見直しつつあります。どのように生きるか、どのように時を過ごすかという選択肢はかつてより増えましたが、かつてのように単純に進歩を信じることができず、個人レベルでは大人も子どももどこまで閉塞感をもち、未来に希望を持たない空気が漂っています。写真映像の世界での急速なデジタル化やコミュニケーションツールの発達によって、時間体験は、今や自由自在に編集可能で、当たり前のように反復し共有することができるようになりましたが、同時にそのことが、[今ここ]に生きている感覚を希薄にしつつあります。「時間」というものそれ自体は、目に見えない観念的なものでありながら、人にとって、それぞれの生きた時間は切実にリアルなものとして感じられるはずで、複雑かつ多層化する現実の在り方のなかで、「時」は今、どのように変容し、どのような意味をもっているのでしょうか。

「スティル / アライヴ」とは、静止と運動のことであり、時間という観点から見た写真 / 映像を表しています。作家たちはリアルな日常世界とたえず交わり刺激をうけながら、時間のイメージを形にしていきます。そこには過去の記憶や未来の予感、そして「今」の時間が刻まれています。また同時にこのタイトルは、「展覧会」という場とその外側にある「現実」の比喩でもあります。作品に込められた様々な時間意識、時間表現と、展覧会を見る人、そこに関わる人が過ごしている時間が交錯し、[今ここ]を生きている感覚が共有されることを本展はめざします。

< 出品作家プロフィール >

伊瀬聖子(いせ しょうこ)

1969 年生、映像作家、兵庫県在住。時間の経過や外的な力によって否応なしに変化していく日常風景や物事を独特の浮遊感と時間感覚をもった映像・写真作品として提示する。スティーヴ・ジャンセン、Human Audio Sponge など音楽家との映像によるコラボレーションを多数手がける。

大橋仁(おおはし じん)

1972 年生、写真家、東京都在住。日常の人々や物事を被写体として、生と死をストレートに見つめ、他者との出会いの瞬間をとらえた写真作品は、「今ここ」の強烈な感覚をともなって見る者に訴えかける。写真集『目のまえのつづき』(1999 年、青幻舎)『いま』(2005 年、青幻舎)を刊行。

田中功起(たなか こおき)

1975 年生、美術作家、東京都在住。日常的な物事に何らかの行為を介在させることによって起こる変化や出来事を映像作品と空間的なインスタレーションによって展開する。複数の映像とありふれた日用品等で構成された空間は多層的な意味の重なりや体験を生み出していく。

屋代敏博(やしろ としひろ)

1970 年生、美術作家、東京都在住。公共空間や生活空間などの場で自分自身が回転体となる写真シリーズ「回転回」を行う。近年、そのシリーズは一般の人々と共同制作する「回転回LIVE！」に発展する。様々な場所で回転の軌跡を記録した作品の中で身体は場と同化し、または異物となり、見知らぬ他人と時間を共有する。

< 出品作品について >



伊瀬 聖子「Swimming in Qualia(スイミング・イン・クオリア)」2007 年(映像作品)

「感覚の中を泳ぐ」をテーマとする新作映像作品では、情緒的でゆっくりとした映像とクールで速いテンポの映像の二つのイメージがダブル・プロジェクションされます。同一の映像素材

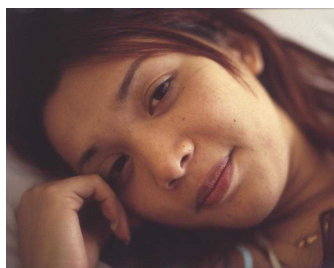
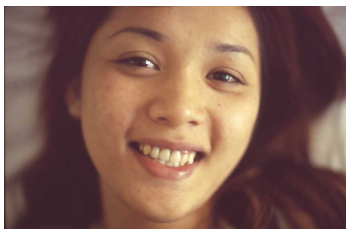
を使って異なる構成、異なる速度で見せるこの映像には、デジタルでありながら頬を風がなでていくような繊細でありまいなニュアンスの感覚体験、時間体験が織り込まれています。出品作品のオリジナル・サウンドトラックは80年代イギリスのニューウェイブ/テクノバンドとして有名な元JAPANのステイーヴ・ジャンセンが担当しています。



「photo works」より 2006 年、写真作品 (参考作品)



「T.F.L.」2003 年、映像作品 (参考作品)



大橋 仁「新作」2007 年 (タイトル未定、写真作品)

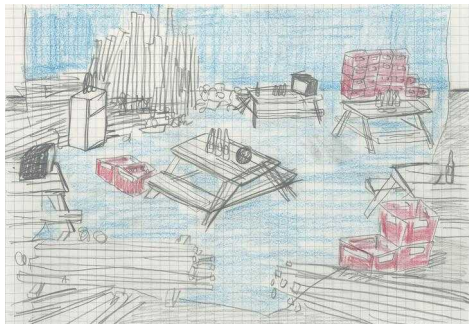
イノセントな笑顔 夜をうろつく野良犬たち。見ようとする視線と対決するかのようこちらを睨みかえし、カメラに撮られていることに気がついた途端に顔を背け逃れようとします。被写体の女たちはタイの風俗嬢たち。撮るものと撮られるものが織りなす時間と感情の流れは、やがて光と波が瞬間、瞬間にきらめくりオデジャネイロとハワイの海のイメージへとつながっていきます。大橋仁が近年、世界各地で撮影した写真のなかから、

本展覧会のために構成した新作約80点を出品します。

田中功起 「家がガーデン・テーブルになり、瓶ビールの消息がわかり、バンドが演奏するとき」 2007年
(仮称、インスタレーション作品)



「新作のためのリサーチ・フォトグラフ」より
2004-2007年(参考作品)



「新作のためのインスタレーションプラン」2007年
ドローイング(参考作品)

田中功起の新作インスタレーションでは、建物の取り壊しや瓶ビールのリサイクルといった世の中のプロセスに干渉し、その流れを「フリーズ(一時停止)」させて、展示会場に持ち込み、人々が集い楽しむための仮設の空間として再構築します。ふだん何気なく眺めている現象や出来事をフリーズさせて、見つめ直してみる。スムーズな流れが変わる、つまりスピードが遅くなることで、気づかないものが見

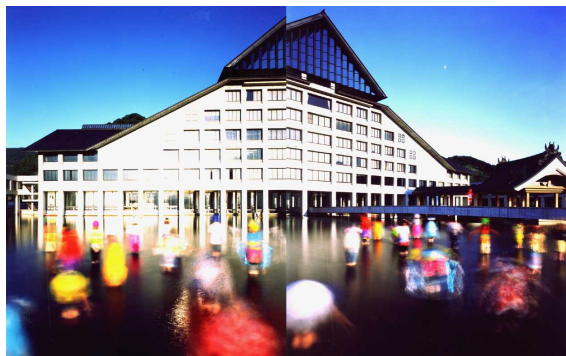
えてくるかもしれません。住宅廃材で作ったガーデン・テーブルや、ビール工場での瓶ビール製造過程に取材した映像作品などを展示します。

屋代敏博 「学校・回転回LIVE！」 2007年
(写真作品)

参加型のアート・プロジェクト「回転回LIVE！」を展開する屋代敏博は、今回「学校」を舞台に、多くの生徒や学生たちとコラボレーションを行いました。参加した学校は幼稚園から小中高、予備校、大学まで約15校。学校とは子どもが大人になるまで過ごし、巣立っていく場所。05年から07年にかけて生徒・学生たちが回転する軌跡を記録したこの写真シリーズは、学校という場所のありふれた日常性と祝祭的な非日常性が同居し、「今」という時を写し出しています。



「回転回LIVE！S高校 卒業式会場」 2007年、写真作品



「回転回LIVE！東北芸術工科大学」 2007年、写真作品



「回転回LIVE！横浜市立S中学校 教室2」 2005年、写真作品

担当学芸員によるフロアレクチャーを第1・第3金曜日14時より行います
「2008 新春おめでとう回転回LIVE！」 2008年1月4日午後3時より開催予定
詳細はホームページにて発表します

<お問い合わせ先:>

東京都写真美術館 〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
展示会担当:事業企画課 石田哲朗・三井圭司

e-mail: tishida@syabi.com / kmitsui@syabi.com

tel: 03-3280-0034 fax:03-3280-0033

広報担当: 事業企画課 久代明子・島津章子

e-mail: a.kushiro@syabi.com / a.shimazu@syabi.com

tel: 03-3280-0034 fax:03-3280-0033

このリリースに掲載されている図版をプレス掲載用としてご用意しています。広報担当までお申し出ください